

放射線科

1) 後期研修の特徴

- 日本医学放射線学会認定修練協力機関である。
- 常勤医 3 名（日本医学放射線学会専門医）と週 5 日の非常勤医体制。
- 業務内容
 - 核医学を除く画像診断、IVR(Interventional Radiology)を行っている。
 - 画像診断は、フィルムレスでモニター診断しレポートシステムにキーボード入力する形で行っている。読影は CT/MRI が主体。その他マンモグラフィー。単純写真は CT/MRI 読影時に同時に参照することで研修する。また、胸部 X 線写真は週 1 回の呼吸器カンファレンスでの読影トレーニング。消化管造影や腹部超音波は実際に検査を行う。グループ内関連施設の遠隔画像診断（CT/MRI）や出張診療（ドック・検診による胃透視フィルムやマンモグラフィー、胸部 X 線写真の読影）。
 - IVR の主たる内容は、原発性肝臓癌の塞栓術（TAE）、原発性・転移性肝臓癌の動注化学療法やリザーバー留置術、その他胸部・腹部悪性腫瘍に対する動注化学療法や塞栓術、急性膵炎の動注カテーテル留置、外傷や胸腹部の各種出血に対する塞栓術（TAE）、透析シャントに対する PTA、また非血管系の IVR として、術前 CT 下マーキング（主として肺癌や乳癌）、CT ガイド下肺生検、肝・腎腫瘍のラジオ波焼灼術、胆管ドレナージやステント留置、膿瘍ドレナージなど。 IVR 件数は平均 4 件/週ほど。
- 救急疾患から慢性疾患、悪性腫瘍に至る幅広い分野の疾患が経験できる。

2) 後期研修のための指導医

- 川上光一 部長 日本医学放射線学会専門医
- 横山堅志 副部長 日本医学放射線学会専門医
- 上田依子 日本医学放射線学会専門医

3) 後期研修により取得可能な専門医

- 日本医学放射線学会認定医（後期研修 1 年間は当院で、もう 1 年は修練施設での研修後に受験資格）
- 日本医学放射線学会専門医（認定医取得後 2 年間の研修後に受験資格）

4) GIO

- 画像診断、IVR を体得し、的確な対応がとれる臨床能力を習得する。
- 放射線技師、看護師、また他科の医師と連携し、チーム医療を実践できる。

- 放射線防護を理解し安全な医療行為を行うことができる。

5) SBOs

- 各種画像の読影・レポート作成を単独でできる。
- 患者および医療従事者の放射線被曝のリスク低減に配慮できる。
- 他科とのカンファレンスの司会・進行を行うことができる。
- 他科の医師、看護師、放射線技師とディスカッションができる。
- 正常画像解剖を説明することができる。
- IVR で想定される合併症のリスク判断と予防策を講じることができる。
- 各種 IVR の基本手技を行うことができる。
- 超音波検査、消化管造影検査を的確に実施できる。
- 各種画像診断法の撮像原理、適応を理解し、応用できる。
- 合併症発生時に、適切な医療を行うことができる。
- 造影剤についての基本的知識を有し、副作用に対処できる。
- 総合的な治療方針をたてることができる。

6) Ls

- **On the job training**
- **Conference**,院内勉強会
- 学会・研究会参加、発表
- 放射線科勉強会
- 英文抄読会
- 院内 **CPC**
- 初期研修医の指導
- 週間業務予定

7) 教育評価(EV)

- **On the job**
- 作成した画像レポートの指導医によるチェック

8) 大学医局との関連

- 滋賀医科大学放射線科の関連施設 <http://www.shiga-med.ac.jp/~hqradio/>

9) 将来の進路

- 選考により武田病院グループの病院でスタッフとして勤務。
- 大学病院放射線科勤務。

- 大学院進学。
- 海外留学、国内留学。
- 海外施設で勤務。

開業